別紙様式

改 善 計 画 ・ 結 果 報 告 書

平成２１年６月２４日

評価会議議長　　殿

創造科学技術大学院長　永津雅章

組織評価に関する実施要項第10に基づき、平成20年度に実施した組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり改善計画・結果を報告します。

要改善事項
「静岡大学の理念をよりシンプルで明快な理念にし，それに基づいて，教育研究を勧めること」を要望された。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
大学全体に関わる事項であるので，今後大学首脳部と意見交換をしつつ，改善したい。
改善結果
本学は平成２０年度に大学の使命として定めたばかりである。今後、大学執行部との意見交換を行い、検討対応していきたい。

要改善事項
A.　教育　基準２　教育の実施体制：浜松と静岡にそれぞれ教育分科会をおいているが，学位審査」が完全に分離して行われていることに対する改善
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成20年9月4日に開催された第4回創造科学技術大学院教育部研究部教授会において，大学院教育分科会規則を改定し，適切な学位審査を行うために，「各分科会が学位審査に関して，必要と認めたときは，他方の分科会構成員を当該分科会の構成員に加えることができる」と柔軟な学位審査体制に変えた。
改善結果
2008 年度修了生に対する学位審査から上記改善策を実施した。

要改善事項

A.　教育　基準３　教員及び教育実施体制：教育が主として高年齢層の教授によって担われているが，准教授など若手教員の増加を量る努力をすべきであり，そのプロセスを提案すべきである。女性教員を増加させるための方策が具体的に示されていない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
大学院学生を持つ予定の准教授にも，資格審査後兼担教員として大学院に入れる措置をとった。女性教員の増加については，大学の戦略と関わる問題であるが，大学院独自の人事の場合には，今後の人事で可能の限り努力したい。
改善結果
博士課程を担当する予定の准教授の兼担教員としての資格審査承認を 2009 年度に実施しており，若手教員の増加が予想されるが，女性教員については現状では未定である。

要改善事項
A.　教育　基準４　学生の受入れ：修士課程からの入学者数が少ない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
魅力ある大学院教育と修士課程あるいは学部教育研究の充実は図ること，さらに就職の道筋をつけることを組織的に取り組む。2009 年度中に方針を明確にしたい。
改善結果
博士課程学生に対する経済支援策として、リサーチアシスタント雇用経費により研究に専念できるような制度を2008年度に試行した。このため、私費入学者数の増加の傾向がみられる。今後は、さらなる、修士課程学生の入学促進策について検討を進めたい。

要改善事項
A.　教育　基準５　教育方法及び内容：カリキュラムに共通科目を設け，現代的問題との接合を図ろうとしている点は，評価できるが，浜松と静岡での遠隔地教育が設定されていない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
浜松と静岡での遠隔地教育は特別セミナーや研究発表会では使用されているが，共通科目の講義では，夏と冬年２回交互にやっているため利用していないが，今後検討をし，教員の負担減を図る。2009 年度中に検討をしたい。
改善結果
2009年度において遠隔講義システムの導入について検討を行っていきたい。

要改善事項
A.　教育　基準６　教育の成果：学生による授業アンケートについて，分析が行われていない。達成度，到達度に関して検証をともなったものにすべきである。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

アンケートを踏まえて，授業改善を図っているが，達成度，到達度に関しては検証をしていないので，2009 年度中に実施予定である。
改善結果
2009年度において、学生による授業アンケートの分析を行い、達成度，到達度の検証を行っていきたい。

要改善事項
A.　教育　基準７　学生支援等：修了後の進路に関して，どのような就職先を考えているのか，大学としてのキャリアーイメージを明確にすべきである。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
本年度３月には，初めての学生が修了するので，就職先等を精査し，対策を行う。2009 年度中に検討を始める。
改善結果
2008年度修了生の修了後の進路を調査し、2009年度中に対応を行いたい。

要改善事項
A.　教育　基準８　教育の質の向上及び改善のためのシステム：FD 活動が不十分である。効果の検証を伴う実質的な活動を期待する。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
各専攻単位で開催している学生の研究発表会（Monday Morning Forumや教育フォーラム）を通して、学生の研究進捗状況を複数の教員で把握するなどの活動を行っている。学生による授業アンケートの分析やFD検討会の開催など、組織的なFD活動を2009年度に実施する計画である。
改善結果
2009年度において、各種FD活動の取り組みの実施を企画・提案しており、計画に従って実施する予定である。

要改善事項
修了者予定者の進路の調査をし，産業界等とのマッチング状態を検証して欲しい。　人材の出口イメージを明確にすべきである。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
修了予定者の進路調査を行い，産業界とのパイプを太くし，実質的な改善を図る。 2009 年度までに対応策を策定する。
改善結果

2008 年度修了者の進路調査を行い， 企業とのマッチングなどの検証、修了生の出口イメージの明確化などを 2009 年度に行う予定である。

要改善事項
B.　研究　基準３　研究活動の状況と成果：成果の内容は評価できるが，それをアピールする方策を講ずべき
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
公開のシンポジウム，フォーラムをさらに充実させる。マスコミ等を通じて積極的に研究成果をアピールする。
改善結果
2009年1月に大学院主催のシンポジウムを開催し、新聞等で報道された。また、2009年3月に大学院主催の研究シンポジウムなどを学外で開催するなど積極的な研究成果の発信を行った。

要改善事項
D. 国際交流　基準３　研究面における国際交流活動の状況と成果：外国人研究者の受入をもっと積極的にするべき
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
2009年度にはDDPプログラムのバイオサイエンス系への拡充など，さらなる国際化を行う。
改善結果
2009年度にはDDPプログラムのバイオサイエンス系への拡充など，さらなる外国人研究者の受け入れなど積極的に国際化を行う。

要改善事項
D. 国際交流　基準３　研究面における国際交流活動の状況と成果：国際会議誘致，主催を積極的にするべき
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
これまで創造科学技術大学院がまとまった形で国際会議を主催するまでには至っていなかったが、2008年度末には第一線で活躍する国内の研究者および外国人研究者を招聘したナノバイオシンポジウムおよびTrue Nanoシンポジウムを開催する計画であり、また2009年度には共催としてマイクロ波放電プラズマに関する国際ワークショップを2009年9月に浜松にて開催する予定である。
改善結果
2008年度末には第一線で活躍する国内の研究者および外国人研究者を招聘したナノバイオシンポジウムおよびTrue Nanoシンポジウムを開催した。2009年度も積極的に国際会議などの主催，共催などを行っていきたい。

要改善事項
C．社会連携　基準４　研究サービス面における社会連携活動の状況と成果：はままつ産業創造センター，しずおか産業創造機構，工業技術センターなどの地域産業支援機構の主催する事業への協力や委員の就任などの状況を明確にし，アピールすべき
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
2009年度から，既に行っている年2回の業績報告の項目に「地域貢献」の欄を新たに加え，全教員への調査を行う。
改善結果
2009年度から，これまで実施してきた年2回の教員教育研究業績報告の項目に「地域貢献」の欄を新たに加え，全教員への調査を行っていきたい。